



広報

なまは 市民の友

平和をつないで、未来へと

戦後74年目となった今、戦争体験者も高齢となり、沖縄戦の記憶の継承が課題となっています。

悲惨な戦争をくり返さないためにも、平和の尊さを次の世代につなぐ、市や学校の取り組みを紹介します。6月23日は慰霊の日です。みなさまも改めて、平和について考える日にしましょう。

平和教育担当者研修…学校教育課 ☎917-3506

長崎平和交流事業…平和交流・男女参画課 ☎861-5195

①那覇長崎平和交流事業青少年ピースフォーラム派遣前に沖縄戦の事前学習を行う中学生たち ②対馬丸記念館の案内パネルなどの英訳に取り組み上山中学校の3年生(平成30年度) ③小中学校の平和教育担当教員研修



教育現場での取り組み

子どもたちに平和の尊さを伝えるため、学校では戦争体験者の講話や、各資料館、戦跡の見学など、様々な取り組みを行っています。

上山中学校では、昨年、3年生が英語の授業の一環で、若狭にある対馬丸記念館内の案内パネルと詩の英訳に挑戦しました。同年5月に、学校で行った対馬丸記念館の高良政勝理事長の講演をきっかけに、学校側が英訳を提案。はじめに生徒たちは映像観賞や対馬丸記念館の見学を通して「対馬丸事件」について学びました。

上山中の前身の学校の生徒が対馬丸に乗船していたことを知り、「先輩たちの思いや体験を外国の人に理解してもらいたい」と、試行錯誤しながら丁寧に作業を行いました。英訳された文章は12月に対馬丸記念館へ寄贈され、現在、館内に展示されています。

また、市では小中学校の平和教育担当教員を対象に、平成27年から毎年、対馬丸記念館と共同開催の研修を行っています。教員は対馬丸記念館や、付近の慰霊碑の見学、戦争体験者の講話などを通して

て歴史や当時の状況を学び、各学校での平和学習に活かします。

県外との交流を通して

学校の外でも平和学習は行われています。「那覇長崎平和交流事業」青少年ピースフォーラム派遣、平和の尊さを学び、平和に対する意識の高揚や次の世代へ継承する人材育成を目指して、市が平成8年から行っている取り組みです。市内の中学校から推薦された生徒を長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」に派遣し、全国から集まった生徒と交流するなかで、平和について考えを深めてもらいます。そして、学んだ内容を母校に持ち帰り、他の生徒たちに向けて発信してもらいます。

また3年に1度、長崎市の中学生が沖縄を訪れ、沖縄戦について学ぶ「少年平和と友情の翼」の受け入れも行っています。長崎市と那覇市の中学生が一緒に慰霊碑や戦跡を巡り、交流しながら平和について学ぶ手助けをしています。

新しい時代に平和への思いをつなぐため、これからも市民、学校と協働により恒久平和への思いを発信していきます。

平和教育担当者インタビュー 伝えたいのは今も昔も「命の大切さ」

大城 邦夫 (松城中学校教諭)

様々な学校で平和学習に関わってきましたが、印象に残っているのは約14年前、戦時中に6校あった本島の高等女学校の女子生徒隊生存者を一堂に集めて行った授業です。授業では、戦前の学校の様子や教育について、生徒自身にインタビューしてもらいました。今ではお亡くなりになった方もいるので、ああいった試みはもう難しいでしょうね。また他には、資料館から戦争遺物を借用して学校で展示したり、防空壕の発掘現場に生徒を連れて行ったりしたこともあります。

私は担当する社会科の授業でも、テロや紛争などの時事問題を取り上げます。子どもたちには、沖縄戦だけでなく世界情勢を通して広く平和について学んでほしいと思っているからです。

伝えたいのは今も昔も変わりません。「命の大切さ」です。1人でも多く、考える生徒ができてほしい。大人になった時に、学校での平和学習のことを思い出して、自分はもちろん、他人の命も大切にしてくれればいいなと思っています。

はいたい。元号が「平成」から「令和」へと変わりました。「平成」の30年間が、我が国において戦争がない平和な時代であったことを心から嬉しく思っています。戦後74年、先の大戦を体験した方々から戦争の悲惨な実相が語られています。そして、貴重な記憶を風化させないよう次の世代にしっかりと語り継いでいくことが、今を生きる私たちの責務だと思っています。次代を担う若者が、戦争の不条理や差別、偏見の愚かさを知り「命どう宝」の思いを胸に刻んでほしいと願いながら、新しい時代においても平和を希求する思いを発信し、平和の尊さを受け継いでいくまちづくりに努めていきます。ゆたさるぐとう うにげーさびら。

平和の絆



那覇市長 城間 幹子

主な紙面

- 平和をつないで、未来へと…………… 1
- 社協って、なあに? / 那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンターにご相談ください / 新文化発信拠点施設名称募集…………… 2
- 大切な歯やお口を守る7か条! / 妊婦歯科健診の費用を助成 / みんなで考えよう、救急車の適正利用! / ふるさとづくり寄附金の状況 …… 3
- 情報パック…………… 4 ~ 7
- 博物館トピックス / ニュースダイジェスト…………… 8

総人口 321,515人(5,173人) 世帯数 153,141世帯(3,661世帯)

男:155,754人(2,730人)
女:165,761人(2,443人)

※()内はうち外国人
※総人口と世帯数は2019(平成31)年4月末現在

